

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

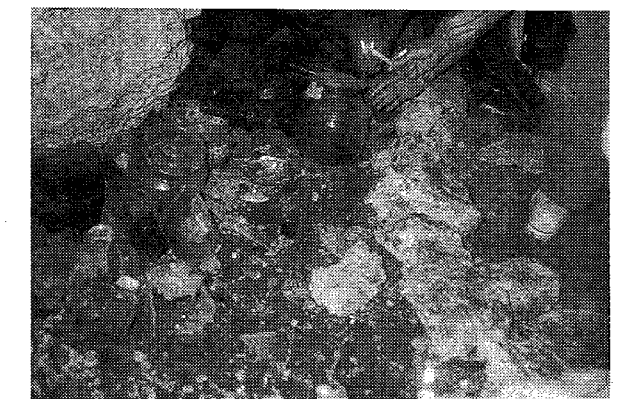
沖縄に動輪旗翻る

闘争報告
No.3



四全国集会」に参加し、特に、主催者県民会議からの報告に胸をうたれる想いであつた。涙ながらの訴えを聞くうちに、沖縄の深い哀しみ、激しい怒りを肌で感じる事ができた。

二五日、この日は、皇太子が沖縄市（旧コザ市）で国体開会式に出席する日である。われわれは、那覇市から沖縄市へ入り、開会式出席反対の集会に参加した。その後、全電通や教組、主催者県民会議などが出席した「天皇の戦争責任を告発する集会・街頭行動」に参加し、デ



84名の集団「自決」を強要された人々の遺骨、遺品は、「沖縄戦」を語りつぐために、当時のまま残されている（読谷村）

沖縄派遣団 川崎昌浩

十月二二日から二五日にかけて、皇太子沖縄訪問反対を掲げて沖縄現地闘争を割ったかい抜いた。

二三日には、九八名の「集団自決」虐殺」が行われた読谷（よみたん）村の「チビチリガマ」の中に入り、「自決」当時のままになっている犠牲者の遺骨や遺品を眼前にして、強いショックを受けた。

説明をしてくれた「平和のための読谷村

実行委員会」の知花さんの話を聞くうちにガマ（川瀬）の中から怒りの声が聞こえてくるようであった。

二四日、いよいよ皇太子が来る日だ。動労千葉は、午前中に天皇訪沖に反対する東京会議と共に、来沖反対の集会を行った後、主催者県民会議主催による集会に参加し、沖縄の労働者・市民と共にたかい抜いた。動労千葉も挨拶を行い、天皇制攻撃を許さず沖縄県民と連帯してたたかう決意を明らかにした。そして、機動隊の弾圧をはねのけて国際通りを貫くデモを行った。

さらに夕方、東京会議主催の「十・二

11・17青年部 団結集会へ

JR当局は、動労千葉の強制出向拒否のたにかいにあせり、新たに東北から関東への二千名とも四千名ともいわれる広域配転を策動している。「六三・三ダイ改」では、列車五万キロに増にもかかわらず、効率化と称して二六〇〇名（東日本）の要員削減（これを上回ることとは必至）を強行しようとしている。さらに、千葉においては、「木原線廃止」によって「いすみ鉄道」三月開業を狙い、強制出向を強行しようというのだ。われわれ

は、強制出向に対し、ストも辞さずたかかう体制を構築し、JR当局の奴隸的労務支配、組合破壊を打ち破るために全力でたたかわなくてはならない。

レーガンのイラン侵略戦争一株の大暴落、円高不況—まさに世界は、激動の世になっている。つまり青年労働者の登場が求められている。

この間、青年部は、国鉄—三里塚—沖縄を軸に、出向阻止闘争の最先頭となつてたたかってきた。いまこそ、全力で第



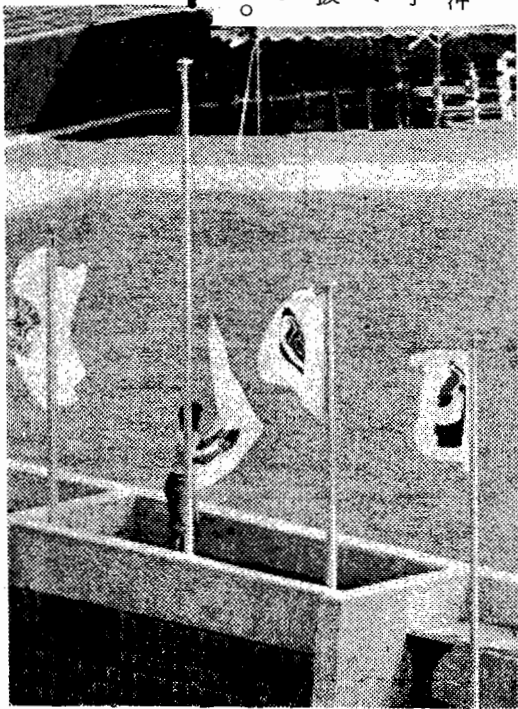
全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

モを行った。デモ解散後、交流会が持たれ、全国からの報告、沖縄の訴えなど熱烈な討論が交わされ、天皇制打倒、動労革マルをはじめとした革マル分子を一掃することを誓いあった。

この沖縄闘争は、中曽根の政治のしめくくりとして強行された天皇訪沖攻撃も、国鉄と同じく当初の目論見は沖縄の労働者・人民を天皇制のもとに屈服させ、一気に戦争国家へ突き進もうとした野望を、沖縄県民の怒りと全国からの決起で粉碎されたのだ。また、二六日には読谷村で一度上げられた日の丸が実力では取りはずされ、焼き捨てられてしまった。これこそ、沖縄県民の天皇制に対する答えである。

沖縄では、デモを行っている時でも、歩道や学校の窓などから手が振られ、拍手が送られてきた。まさに沖縄は天皇制を拒否し、天皇の戦争責任を激しく追及しているのだ。

動労千葉は、沖縄のたたかいに学び、天皇制打倒へ向けてたたかい抜かなければならぬことを痛感した。



沖縄の怒り—日の丸を引きおろし焼く

青年部派遣団長 佐藤正和

灯り一つなければ真つ暗闇になってしまふ、ガマと呼ばれる鐘乳洞の中で天皇の軍隊は「天皇の赤子として生きて生きて虜囚の恥ずかしめを受けず」米軍の捕虜にならずに自決せよと、沖縄の人々に肉親を殺すことを強要し、自ら死ぬことを強制した。そして、皇軍自らが住民虐殺に手を染めた。

沖縄について二日目の二三日、ここ読谷村、チビチリガマでは、八四名もの人々が集団自決をした。沖縄戦で犠牲になった人は県民四人に一人の十五万人。

「もつとも愛する者、親や妻子を殺すこと—これを強いたのは誰か、天皇だ！」と凄じい怒りで天皇ヒロヒトを糾弾し、



日の丸を引き降し、焼き捨てた知花代表を先頭に、読谷実行委員会の仲間もおおぜい集まる。

国体ソフトボール会場で日の丸をひきずりおろし、焼き捨てた知花昌一さんの言葉が、今も俺の胸をうつ。
考えると、もう何も言えない。しかし、本土の一人の労働者として闘わなければならぬことがある。
もうこれ以上、天皇や中曽根に好き勝手なことはやらせない。日の丸労働運動を掲げる革マル・鉄道労連、松崎を必ずや打ちたおす。
そして、沖縄の闘いを全国へ！
自分は、最先頭で闘うことを決意して、感想文とします。

家族会代表派遣

A子さん



超長波から極超短波まで世界中のあらゆる電波を傍受し、軍事情報を集収するトリー基地。ベトナム戦争で悪名をとどろかせたグリーンベレーの宿舎中にある。

動労千葉家族会は婦民関東協のみなさんと共に動労千葉より一日早く、十月二一日、沖縄に入りました。国体でわきかえっているはずの那覇市等に「日の丸」の旗はほとんど見当りません。

二一日から二六日までの六日間は、基地・戦跡めぐり、来沖反対の集会とデモ、現地で闘っている方々との交流会など、ぎっしり詰った毎日でした。

読谷村は沖縄本島では米軍が最初に上陸した所で被害が極めて大きく、チビチリガマの集団「自決」があり、現在もトリー基地（象のオリ）などに囲まれ、反戦意識の強い村です。

四二年間、一切の「日の丸」「君が代」を許さず闘われてきたのに、ソフトボール大会の会場問題をめぐって「君が代」「日の丸」がないなら会場を移すという恫喝がなされました。八十才のおばあさんが「『君が代』『日の丸』が競技をするのか」といみじくも言われたように、村民の闘いは「国体」はスポーツの祭典ではなく、天皇の「権威」に県民を、日本人をひざまずかせ、再び戦争にかり

たてる道具に他ならないことが明らかになりました。

二五日の夜の交流会で「君が代」の斉唱は行わないが、事前に「日の丸」掲揚を行う決定がなされたことと絶句しつつも、村民は決起すると訴えておられた平和のための読谷村実行委の方。翌二六日、会場で「日の丸」が引きずりおろされ、やかれた闘いが示しているように、「沖縄の戦後は終っていない」の深い怒りは火を噴きました。右翼、権力、革マルなどの反動があらうと闘いは開始されました。この反天皇の闘いを本土でひきつぎ、戦争政策をなんとしてもやめさせなければなりません。

家族会も労働運動の右傾化、日の丸化にたちはだかり、流れをかえようと奮闘している動労千葉とともに、勝利するまでがんばろうではありませんか。

大会で訴えました派遣費のキャンパ、四七九十二円も集まりました。ありがうございました。